



TOYAMA
Prefectural
University

富山県立大学ニュース

平成27年3月発行
富山県立大学学生委員会

No.106

第25回

県大祭

「県大祭に来られたし」
10月25日(土)・10月26日(日)



CONTENTS

- 退職にあたり
- News Digest
- 学生レポート
- INFORMATION など



「大きな時代の流れの中で」

教養教育 教授 佐藤 幸生

1976年4月、富山県立技術短期大学草農業科に、土壤肥科学実験と農場実習補助の教務職員として採用されてから、農学科(1980年)、富山県立大学短期大学部農業技術学科生物生産専攻(1990年)、生物資源学科(2003年)と3回の学科改組等を経て、2006年3月までの30年間の大半、植物病理学を担当しました。最初の1年を教員室の一角に間借りし、2年目に旧土壤肥科学実験室の1台の実験台で、卒業論文とうどんこ病(菌)研究をスタートしました。農学科への名称変更を機に、植物病理応用昆虫学実験が開講し、ようやく旧畜産学実験室の片隅の部屋を頂き、ビニールハウスで100ポットのアカクロバを育て、気持ちだけは元気に卒業論文と研究に取り組んだ事を思い出します。1990年、園芸学・植物病理学の共同実験室を頂いたときの喜びは、今でもはっきりと思い出します。2006年4月に工学部教養教育に移ってから9年間、生物学を担当しました。大きな生物学実験室、準備室と研究室を自由に使用出来ましたが、この実験室が賑わったのは廃止直前の短大部専攻科の学生を担当した2年ほどでした。1996年に講師昇格してから、非常勤講師として「生物学」を担当しましたので、工学部における「生物学」担当は、都合20年になります。この間、2007年3月に短大部生物資源学科が、翌年3月に同専攻科生物資源専攻が廃止になりました。振り返れば、1961年に制定された農業基本法の「選択的拡大」を背景に、「農工の一体化」を旗印の基、県民の大きな期待を背負って創設された富山県立大谷技術短期大学から、呉西に置けるアルミ産業を中心とした地盤沈下に対する産業構造の再編あるいは転換をも目的として、新たな夢と県民の大きな期待のもと、富山県立大学工学部が開学しました。そして、私の退職で、富山県の高専教育機関における農学の教育研究が、幕を閉じます。最後の一兵卒としての想いは、万感胸に迫るものが有ります。幾つもの荒波の中で、生物学研究室の歴史にただ1つの汚点も残すことなく、勤め上げられたのは、卒業生からの叱咤激励とともに、学の内外の方々の絶大なるご指導ご支援があったればこそと思っています。大変お世話様になりました。本学の、今後益々の発展をお祈りして、挨拶とします。



「退職のご挨拶」

情報システム工学科 教授 岡田 敏美

富山県立大学創設の平成2年以來25年間、あっという間に時が過ぎ去りました。数々の思い出がありますが、その中で学生さんとの付き合い、特に卒業研究について紹介させていただきたいと思います。

学生さんと濃密に付き合う場といえば、1年をかけての卒業研究であろうか思います。学生さんは、いうまでもなく勉強仲間であり研究者の卵でありますので、“この研究は世の中のためになる、面白い、最新である”と理解され、意欲的に取り組める研究課題を設定してきました。私の所属する情報システム工学科の電磁波工学研究グループではこれまでに175名の卒研を送り出していますが、この間、一人の休学者や退学者もおらず、全員“卒業”されました。順調に研究が進まない場合もあり得ましたが、そのような事態を生じさせないために様々な交流の場を設けて、学生さんの積極的な参加を促してきたと思います。また、グループ教員(3名)が協力して卒研の指導をするという方針で研究室を運営してきました。

私たちの研究グループのみでは解決できない課題については積極的に他大学の研究室やJAXAなど国立共同利用研究機関、アラスカ大学、県内外の企業と共同研究を行ってきました。必然的に卒研生は企業のエンジニアや他大学の研究者と付き合うことになり、鍛えられます。アラスカ大学とはホーキンス教授のご指導の下、NASAの協力を得て学生による手作りのロケット実験に多くの学生を派遣し、国際的な舞台での教育実践を実施しました。

以上に研究室活動の一端をご紹介しましたが、私自身が学生の皆さんから大変多くのことを学ぶことができました。“袖擦りあうも多生の縁”、本学において切磋琢磨して成長できたことに感謝しております。

最後になりますが、富山県立大学のますますのご発展をお祈り申し上げ、お礼の挨拶とさせていただきます。長い間、ありがとうございました。



「定年を迎えて思うこと」

教養教育 准教授 上谷 保裕

生来怠惰でいい加減な人間であるから、自身を鞭打ちながら40年間やってこられた安堵感と、同時にその反動が少々不安でもあるのが大雑把な現在の心境です。その一方で、やはりどうしても、この間を振り返らざるを得ません。

私の本学での経歴は大きく三つの期間に分けられます。前身の県立技術短大時代をⅠ期とすると、本学開学時から工業技術センターや商工労働部商工企画課で兼務したⅡ期、その後、平成18年4月に教養教育に専任となってから今日までのⅢ期と、順調に推移した場合より一期多いことになります。本学開学時の大波を乗り越えられなかったからであり、いわゆる順風満帆ではありませんでした。ポジティブな言い方をすれば、Ⅱ期では、普通の大学人とは異なり、滅多に味わえない経験をさせてもらいました。教育だけでなく研究もやれとのことで、始めはかなり悩んだ短大時代、もっと実用的な研究をやれと言われて研究テーマを大転換した兼務時代、物理（力学）を担当して基礎教育の難しさを痛感した教養教育での9年間、いずれもしっかりやれたか疑問です。ただ、性格がそうだから、その時々課題に対してかなり我武者羅に取り組んできた気がします。

大学では、「教育・研究」の両面性が求められますが、上述のような状況下では、特にⅠ期後半からⅡ期にかけて自然に「研究」が主になり、実際に、論文が一番書けました。従って、この場に及んで想い出すのは研究に関連することばかりです。研究テーマの設定や研究で思い悩んだこと、それが上手くいって成果が得られたときの達成感、また、指導や相談いただいた諸先生や研究を一緒にやった学生ならびに、助言や資料提供などをしていただいた企業の方々との出会いなどが懐かしく、まさに走馬燈のように思い浮かびます。結局、当たり前ですが、自分一人ではあまり研究は出来なかつたろうし、それが出来たのは、色々の人との出会いがあったからこそと、あらためて思っているこの頃です。



「県大祭に来られたし」第25回県大祭 開催 !!



10月25日(土)、26日(日)に学生が中心となって行う最も大きなイベント「第25回県大祭」が開催されました。

「県大祭に来られたし」をテーマに、サークルによる演奏発表やバラエティに富んだ模擬店、来場者参加型のステージ企画など魅力的なイベントが多数行われ、来場者を楽しませていました。

また、25日(土)には「きただにひろし」、「喜多修平」、「佐咲紗花」の3名によるミュージックライブが行われ、会場となった大谷講堂は熱狂に包まれました。

2日間とも好天に恵まれ、学生はもちろん、地域の方々や子どもたちなど、大勢のご来場をいただき、2日間の日程を無事終えることができました。

富山県立大学第13回FD研修会

10月27日(月)、本学において、FD研修会を開催しました。FDとは、教員が授業内容・方法を改善し向上させるための組織的な取組みのことで、平成14年度から毎年1回開催しており、今回で13回目となりました。

今年度は、本学での教育改善に向けた方策等を探るため、学長からの「本学の教育への想い」をテーマとした講演のほか、各学科から教育の現状、問題、取組みについてご紹介いただきました。その後、教養教育を含めた各学科から教育上の課題やそれに対する取組みなどについて発表を行いました。

研修会後行ったアンケートでは、「各学科での*COCの取組み」や「教えあい」など、他学科の様々な取組みが参考になったとの意見が多く得られました。



※地(知)の拠点整備事業



秋季公開講座

11月1日(土)、8日(土)、15日(土)、22日(土)の4日間、本学大講義室において秋季公開講座を開催しました。今回は、環境工学科の教員が講師となり、「迫りつつある災害・環境の危機～身近な防災・環境・資源を考える～」をテーマとして講義を行いました。循環社会工学やコンクリート工学など多岐にわたる分野の講義で、本学教員の教育・研究の成果を広く皆様に知っていただく貴重な機会となりました。

県内各地から延べ200名が参加され、皆さん熱心に講義を聴いておられました。

中国科学院上海硅酸塩研究所の大学院生が富山県立大学を訪問

平成26年11月の10日間、中国科学院上海硅酸塩研究所の大学院生10名を受け入れました。本学と硅酸塩研究所は、平成18年に学術交流協定を締結し、知能デザイン工学科唐木准教授が強誘電体材料・圧電材料などについて共同研究や情報交換を行ってきました。今回の招聘は、(独法)科学技術振興機構の平成26年度日本・アジア青少年サイエンス交流事業の支援を受け、日本の最先端の科学技術への関心を高めることなどを目的に実施されました。本学では、石塚学長との懇談の後、PM2.5に関する講演を受講し、9つの研究室を見学しました。

また、山梨県で開催された日中強誘電体応用会議に参加し、参加者100人を超える国際会議でのポスター発表と交流を通じて、最先端の科学技術への理解を深めました。彼らが本学と硅酸塩研究所、さらに日中の架け橋となり今後一層の交流があるよう願います。



環境講演会

平成26年11月6日(木)アイザック小杉文化ホール ラポールにおいて、「富山県立大学環境講演会」を開催しました。

この講演会は、環境問題に対する知識や問題意識を学ぶことを目的として、環境分野の第一人者をお招きするもので、学内外から幅広く聴講者を募り実施しました。

今年度は、「地盤遺跡保全のフロンティア～真正性の確保と地盤工学の役割～」という演題で、京都大学教授 三村 衛 氏に講演いただきました。

講演会では、奈良県の高松塚古墳の修復に地盤工学の分野から携わった際に得られた知見を元に、今後の自然環境と調和した文化財の保護、修復について提言いただき、総勢273名が熱心に講演内容に聞き入っていました。

夏野射水市長が本学で特別講義

平成26年11月7日(金)、本学大講義室において、夏野射水市長による特別講義がありました。今回の射水市長による特別講義は、2年次生を対象とするトピックゼミの一環として開講しました。

当日は、「射水市のまちづくり 市民の幸福実現に向けて」と題し、射水市長から、人口減少・少子高齢化の急速な進展、安全・安心に対する意識の高まり、グローバル化の進展など、射水市を取り巻く社会経済情勢が大きく変化するなか、地域住民の幸福実現に向けたまちづくりへの取組みなどについて説明がありました。

受講した約200名の学生は、自治体トップから直接、射水市の魅力や自治体行政について聞くことができ、理解が深まりました。

図書館学生支援隊が作成した新しい図書館ホームページを公開

本学附属図書館のホームページの装いを昨年11月に一新しました。この図書館の新ホームページのデザイン、コンテンツ作成、およびHTMLなどのコーディングは、図書館学生支援隊によって行われました。隊員は、学内公募に応じて参集した機械システム工学科、知能デザイン工学科、情報システム学科の高いスキルを持つ学生諸君です。

図書館学生支援隊員の8月から10月にかけての活動により、図書館の新ホームページは操作性が向上し、スマートフォンからも閲覧できるようになりました。

また、コンテンツの編集や追加も容易になり、利用案内情報や、学位論文・紀要・マルチメディアなどの蔵書情報を充実しました。



附属図書館はこの新ホームページを通じてさまざまなメッセージを発信していきます。

URL : <http://www.pu-toyama.ac.jp/library/index.html>



とやま産学官金交流会2014

県内の企業、大学、研究機関の関係者が一堂に会し交流を深める「とやま産学官金交流会2014」が12月2日(火)に富山国際会議場で開催されました。

今年は「富山の産業と未来を拓く新幹線」をテーマに基調講演、ポスターセッションなどが行われ、会場は多くの参加者で賑わいました。

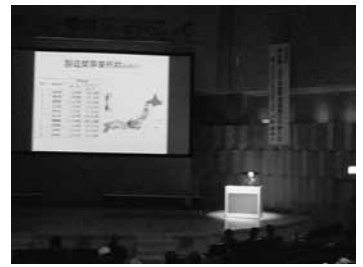
特に、「とやまのプロジェクトX」では新幹線のアルミ技術や「W7系」のフロントガラスに採用された曲げガラスの技術、駅舎に採用された県産スギの不燃壁材など

新幹線を支える富山のものづくり技術の事例発表が行われました。また、ポスターセッションには本学から17の展覧があり、本学の研究成果について活発な意見交換が行われました。

産学官連携環境シンポジウム –環境ものづくりでつながるとやまの産学官–

12月12日(金)富山国際会議場において、「富山県立大学産学官連携環境シンポジウム–環境ものづくりでつながるとやまの産学官–」を開催しました。

このシンポジウムは、本学が取り組む環境教育や産学官連携事業等について情報発信するとともに、企業関係者等に環境人材育成に対する理解を深めていただくことを目的としています。当日は、基調講演として名古屋大学工学研究科 准教授 小林 敬幸氏に「富山県における産学官連携の今後とは」と題して講演をいただきました。また、パネルディスカッションとして本学が推進する環境調和型技術研究開発推進事業など、実際に産学官で連携した研究について取り組んでいる教員らによる研究発表を行い、本学の今後の産学官連携の在り方について議論を深めました。



地域協働授業成果発表会

平成25年度文部科学省「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」の採択を受け、地域関係者との対話を通じた授業における学生の取り組みを知っていただくため、1月29日(木)、30日(金)に本学にて「地域協働授業成果発表会」を開催しました。1年生の教養ゼミ、3年生の専門ゼミ等計17グループが発表し、学生、教員、地域関係者等約240名が参加しました。発表会では万葉線に導入予定のICカードについての検討など、地域の課題についてさまざまな提言がなされ、参加した地域関係者の方からも質問が挙がるなど活気にあふれる場となりました。

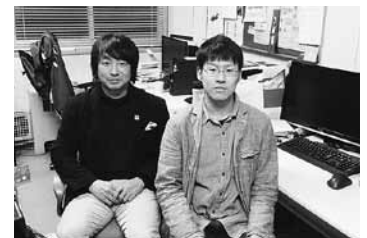
本学教員等の受賞について

環境工学科 九里徳泰教授、大石直人さん(環境工学科4年)

日本環境共生学会 学会賞「優秀発表賞」 H26.12.15受賞

受賞論文 「企業における環境コミュニケーションの実態と展望

–ステークホルダーダイアログの経営への活用–



<研究の概要等>

2010年のISO26000社会責任の国際ガイドラインの登録により、企業の社会的責任(CSR)及び企業におけるガイドラインに沿った経営が重要視されている。本研究では、ISO26000においても重要視されている「ステークホルダー・エンゲージメント」活動において必要な要素である利害関係者との対話、「ステークホルダーダイアログ」の日本企業における実施を調査し、その特徴を分析するとともに、経営に活用できる最適なエンゲージメント・モデルを提示した。

本学学生等の受賞について

本学学生等が次のとおり各学会賞等を受賞しました。

受賞者	学科等	学会賞名	受賞年月	指導教員
小出 修平	機械システム工学専攻 博士前期課程1年	日本トライボロジー学会 第5回トライボロジー秋の学校 優秀ポスター賞	2014年9月	講師 宮島 敏郎
荒井 健次	知能デザイン工学科4年	全国大学ビブリオバトル2014 ~京都決戦~ 北陸ブロック地区決戦 優勝	2014年10月	助教 本吉 達郎
水内 智也 嘉指 裕介 高林 悠一 酒井 一樹	情報システム工学科 2年、3年	第7回とやまビジネスプランコンテスト 優秀賞 グループ名「イメージトレイニー」 題名「臨場感あふれる感覚サービス提供の支援」	2014年10月	講師 中田 崇行
水内 智也 嘉指 裕介 高林 悠一 酒井 一樹	情報システム工学科 2年、3年	「ビジネスモデル発見&発表会」北陸 キャンパス部門審査員特別賞 グループ名「イメージトレイニー」 題名「臨場感あふれる感覚サービス提供の支援」	2014年10月	講師 中田 崇行
陸 遙	知能デザイン工学専攻 博士後期課程2年	第9回アジア強誘電体会議・電子セラミックス会議 (The 9th AMF-AMEC-2014) Excellent Poster Awards 2等賞	2014年10月	准教授 唐木 智明
野尻 茜	生物工学科4年	第7回北陸合同バイオシンポジウム カutting・エッジ賞	2014年11月	教授 西田 洋巳
河崎 隆文	情報システム工学科4年	第22回マルチメディア通信と分散処理ワークショップ (DPSWS2014) 優秀ポスター賞	2014年12月	教授 松本 三千人 准教授 岩本 健嗣
繆 宇峰	ERATO研究員	Active Enzyme Molecule 2014 ポスターセッション最優秀賞	2014年12月	教授 浅野 泰久
大池 敬子	生物工学専攻 博士前期課程1年	Active Enzyme Molecule 2014 ポスターセッション奨励賞	2014年12月	教授 浅野 泰久
長嶋 太良	知能デザイン工学専攻 博士前期課程1年	平成26年度日本生体医工学会北陸支部大会 研究奨励賞	2014年12月	講師 高野 博史
丸山 紘史	情報システム工学科4年	富山県機電工業会「ものづくりinとやま」奨励賞	2015年2月	准教授 岩本 健嗣

●新任教員紹介●



教養教育 准教授 山崎 大介

平成26年10月より、工学部教養教育の准教授として着任いたしました。主に英語科目（英語基礎及び総合英語）を担当しています。研究分野は、英語学と英語教育で、特に音声学を専門としています。高校時代、英語が大嫌いな時期がありましたが、発音やリスニングを含む音声トレーニングなどを行うことにより、英語が好きになりました。音声を利用することにより、英語を効果的に効率よく学習できるのではないかと考えています。教育や研究など多方面にて貢献できますよう精進する所存でございます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。



機械システム工学科 講師 杉岡 健一

平成26年10月より、機械システム工学科の講師として着任いたしました。これまで、空気と水などの混ざった流れ（混相流）での熱・物質移動の解明や超高温での熔融金属の熱物性の研究、それらを用いた材料生産システムの熱設計の最適化に関する研究と化学工学分野における熱・物質移動現象に関する教育を行ってまいりました。これまでの経験を生かし、今後より高度化・複雑化していく科学技術の世界で十分活躍できる人材を育てていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

学生 レポート

学生スマートフォンアプリ コンテストに参加して

富山県立大学 工学部 情報システム工学科

通信ネットワーク工学講座 丸山 紘史



平成26年8月に、私は、チーム名を「ユビ研」として研究室のメンバーとともに、情報処理学会の「コンシューマ・デバイス&システム研究会」と「モバイルコンピューティングとユビキタス通信研究会」で合同開催された「第二回学生スマートフォンアプリコンテスト」に参加し、自動で硬貨を排出する財布である「Smart Wallet」を製作、発表しました。私の担当はハードウェアの回路の設計とその配線でした。実用的な回路の設計は初めての経験だったので、失敗を繰り返しながら製作しました。先輩に助けをもらいながら、設計はでき

たのですが、私の配線の仕方が悪く、断線することも多くあったために、学会の前日には、ホテルで配線を直すというほどにギリギリの製作になりました。

学会での発表は今まで作成が忙しかったこともあり、前日のホテルでの練習のみで迎えることになりました。残念ながら発表時には「Smart Wallet」は上手く動作しませんでした。しかし、発表後のデモ展示の際には多くの方が見にこられて、評価して下さったことや、褒めていただいたことでとても誇らしく感じられました。発表の結果は優秀賞で、残念ながら最優秀賞は逃してしまい、私自身はまだどこかもっと上手く行なえたのではないかと考えてしまいました。そして、私の研究テーマとしてもっと良いものを作るという目標ができ、今また新たな設計で「Smart Wallet」を作っています。

最後に、今回の学会参加でお世話になった全ての方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。



Smart Walletの外観



Smart Walletの内部

富山県立大学県民開放授業(オープン・ユニバーシティ)

～平成27年度前期受講生募集～

本学では、地域の皆さんに正規の授業を公開する県民開放授業（オープン・ユニバーシティ）を実施しています。

4月から開始する前期授業においても、教養教育科目、機械・電子系専門科目、バイオテクノロジーや環境工学に関する専門科目など約100科目のバラエティに富んだ授業を公開します。

公開科目の中からニーズにあった講義を選んでいただくため、実際の授業を試聴いただいた上で受講科目を決定することができます。皆様のお申込みをお待ちしています。

開講予定科目

一般教養科目から各種専門科目まで、バラエティに富んだ授業を公開します！

一般教養科目

社会学Ⅰ、経済学Ⅰ、芸術学Ⅰ など

工学部専門科目（機械・知能・情報・生物・環境）

工業力学、メカトロニクス概論、ソフトウェア基礎、生命科学史、水循環工学 など

スケジュール

募集期間 平成27年3月19日(木)～4月3日(金)

試聴期間 平成27年4月9日(木)～4月22日(水)

授業期間 平成27年4月9日(木)～8月11日(火)

受講料

1科目5,000円（複数科目の受講可）

申込方法

「受講希望調書」を地域連携センター受講生窓口に持参、郵送、FAX又は電子メールでお申込みください。受講希望調書、科目、スケジュール等はホームページに掲載します。詳しくは下記大学ホームページにてご確認ください。（3月下旬掲載予定）

http://www.pu-toyama.ac.jp/news/news_local/

○募集要項請求先・問合せ先

富山県立大学地域連携センター（受講生窓口）

〒939-0398 富山県射水市黒河5180

TEL：0766-56-0604 FAX：0766-56-0391

E-mail：openuniv@pu-toyama.ac.jp

URL：http://www.pu-toyama.ac.jp/news/news_local/

学位記授与式

平成26年度の学位記授与式をアイザック小杉文化ホール ラポールにて執り行います。また、授与式後、本学大谷講堂にて後援会及び卒業生一同による「卒業記念・謝恩パーティー」を行います。

【授与式】

◆日時：平成27年3月21日(土・祝) 午前10時～

◆会場：アイザック小杉文化ホール ラポール（射水市戸破1500番地）

【卒業記念・謝恩パーティー】

◆日時：平成27年3月21日(土・祝) 午後0時30分(予定)～

◆会場：本学大谷講堂

SCHEDULE

平成26～27年度

	大 学 院	工 学 部
2(月)～4(水) スキー講習会 13(金) 環境マネジメントセミナー 21(土) 学位記授与式	3月	7(土) 一般入試(前期日程) 合格発表 21(土) 一般入試(後期日程) 合格発表
6(月) 入学式	4月	6(月)～8(水) オリエンテーション 6(月)～8(水) 学生定期健康診断 9(水) 前期授業開始
22(金) 学生球技大会	5月	

CAMPUS NOTE

スケートボードサークル



スケートボードサークルは、体育館下ピロティで日々スケートボードを楽しんでいます。活動時は主に、昼休みや放課後です。メンバーは約15名で、スケートボード以外にキャンプやBBQなどのアウトドアにも力を入れて活動を行っています。これからの活動は、スケートボードマラソン(スケートボードで旅行)、セクション(ランプや台など)作りなど行っていきたいと思います。スケートボードマラソンは去年、県立大学～東尋坊(福井県)まで行きました。このような経験が出来るのは、学生の内だけだと思います。スケートボードは、仲間との繋がりが深いものであると思います。また、仲間と共に技術を競い合い、向上心を磨く事ができます。スケートボードは簡単そうにも見えるけど、バランス感覚が大切に、とても奥深い所が醍醐味であります!! スケートボードに乗ってみたい!! と思っている方、スケートボードは昔やっていただけ今はやってない方などは是非、体育館下ピロティでスケートボードを楽しみましょう!! (部長 知能デザイン工学科2年 神谷洋平)

編集後記

今回は、同じ釜の飯を食った仲間同士の縦の繋がり、そして、横の繋がりのお話である。小生の担当している研究室では、毎年、夏休み期間の9月下旬に2泊3日の予定で複数研究室合同で、立山、白馬、妙高高原、飛騨高山などのリゾート地のペンションに合宿に出かける。ちなみに、今年度は9月末に新潟県の妙高高原のペンションに総勢23名(卒研学生+大学院学生19、教員4)で出かけた。宿の予約から、日程スケジュール、物品購入、諸経費計算は大学院生が中心になって学生がすべて行う。初日の朝、大学を出発し、お昼前に現地到着、昼食後に、午後から夕方まで、各々の学生が自分の卒業研究や院生研究の発表を行い質疑応答を行う。夕方からは、お楽しみのバーベキューパーティを屋外で行う。飲み物も、ジュース、チューハイ、ビール、日本酒等様々である。外灯の下で炭火で焼く焼き肉の味は格別である。2日目は、3グループに分かれて自由行動である。第1の健脚グループは近くの名山に若手の先生の引率で幾分ハードな登山である。日の出前の早朝、ペンションで昼飯用のオニギリを作ってもらい出かける。第2の穏やかグループは、朝食後、近くの観光リゾート地を巡るハイキングである。そして、第3のスポーツグループは、常日頃の運動不足を解消すべく、近くのミニゴルフ場でのコース巡りである。小生、若かりし頃は、登山グループに入っていたが、最近の7～8年は、もっぱらミニゴルフコース巡りである。アイアンやパターなどゴルフ道具はゴルフ場で借りるので、持っていく必要がない。社会人になると必要なスポーツの一つということで、結構学生に人気がある。初心者もいるので、最初が肝心、開始前に自分が教師役になって、クラブの握り方や振り方について教えている。基本は、一応、プロゴルファーに習ったので教えることが出来る? と思っている。打球がOBゾーンに入る学生も多いので、毎年、数十球の予備球を学生用に持って行く。コース巡り後は、皆でスコアを見比べ楽しんでいる。その後、近くの天然温泉でひと汗流してペンションに帰る。3グループが揃ったところで夕食、その後はゲーム等の2次会である。3日目は、朝食後ペンション前で、全員で記念写真を撮り帰る。学生は合宿時の写真を研究室ホームページや卒業アルバムに貼り付けている。

同じ釜の飯を食った研究室仲間は、毎年、大学祭の折に研究室学生が幹事役となってOB会を居酒屋で開いている。今年度も焼き鳥店で大いに賑わった。研究室学生は先輩諸氏から進路や就職先の話など貴重な助言をもらっている。先生方もOB学生の近況を聞いたり、時には人生相談にのったりしている。研究室仲間の繋がりは、極めて強い。研究室学生が就職活動で県内外に出かけた機会などに先輩のOB生と会って会食する(一杯飲む)など、いい縦の繋がり横の繋がりが出来ているようである。小生自身にしても、学生時代の友人や先輩、後輩そして恩師は一生の宝物である。(学生部長 中村 清実)



この用紙は資源保護のため、インキは植物油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。